山口大学医学部附属病院　緩和ケア研修会報告

山口大学医学部附属病院
緩和ケアセンター事務局

平成 30 年 11 月 11 日（日）に山口大学医学部附属病院主催緩和ケア研修会が、長門総合病院、都志見病院との共催で、山口大学医学部附属病院新中央診療棟 1 階多目的室 1・2 において開催されました。

「がん対策基本法」に基づく「がん対策推進基本計画」において、「すべてのがん診療に携わる医師、及び緩和ケアに従事する医療従事者が、緩和ケアについて基本的な知識を習得する」ことが目標と掲げられています。この目標達成のため、 国が定めた「緩和ケア研修会の開催指針」に基づき、統一的なプログラムによる研修会を実施しています。

今回は、10 人のファシリテーターを迎え、当院及び近隣の病院をはじめ様々な診療科から、18 名の医師、2 名の看護師の参加がありました。

当院腫瘍センター副センター長吉野茂文医師の開会挨拶に始まり、研修は講義だけでなく、グループで行う事例検討、医療従事者、患者役、観察者役を交替で演じるロールプレイも行われ、どの形式においても様々な意見や質問が活発に出され、参加者の真剣さや意欲の高さを感じることができ、有意義な研修会となりました。

≪研修会風景≫

開会挨拶

ロールプレイ

グループワーク

グループワーク